

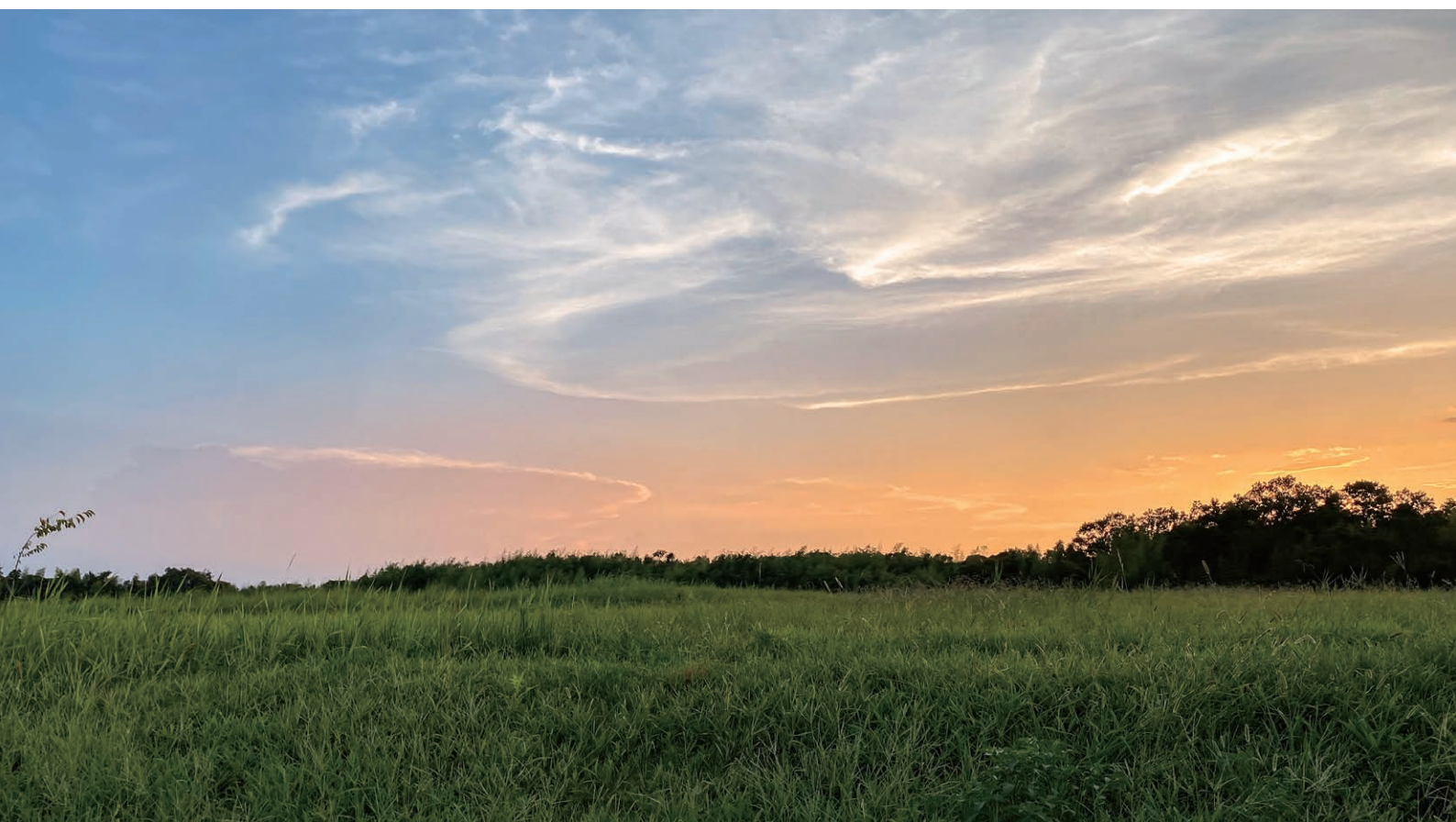
JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。

厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

Vol. 83

2020. 10



もくじ

新リハビリテーションセンター紹介	2
「人権の花運動」のお花をいただきました	
／病院で福祉の相談ができることをご存じですか?	3
自動錠剤分包機および調剤支援システムの更新について	4
女性泌尿器科外来を開設しました	5
新型コロナウイルス感染防止対策	6
Eye care data management「FORUM」を導入しました	
／認定看護師紹介	7
地産地消を進めて早や 10 年・秋尽くし献立（普通食）	8

CHECK!



JA三重厚生連の
取り組みを紹介!

特集

新リハビリテーションセンター紹介

松阪中央総合病院 リハビリテーションセンター 技師長 田中 一彦

当院が平成9年に新築移転して20数年が経過しました。当初と比べ疾病構造の変化、地域医療における役割の変化、診療報酬改定による施設基準の変化等大きな変革がみられ、それらに対応すべく、病院増改築計画第一期として、令和2年5月、4階病棟内に新リハビリテーションセンターが移設されました。

当院のリハビリテーション介入の歴史は古く、昭和38年に初代技師長である西山行保氏が入職、理学療法室を開設し、その後平成元年には、言語聴覚士、平成2年には作業療法士が入職、平成9年の新病院移転時には、常勤リハビリテーション科医師1名、理学療法士5名、作業療法士3名、言語聴覚士1名となり総合リハビリテーション施設基準の承認を受けました。

現在、新センターでは、リハビリテーション科専門医の指導のもと理学療法士11名、作業療法士6名、言語聴覚士1名、歯科衛生士1名（非常勤）、技術補助員3名が連携し急性期リハビリテーションを中心に入院・外来リハビリテーションを実施しています。

新センターでは、旧センターより面積を拡大し、専門的なリハビリテーションが効率的に行えるようエリア分けを行い新しい機器の導入も行いました。

理学療法室では、「安全懸架装置 レール走行式リフト」、「レッドコード」等の新設をしました。レール走行式リフトは、天井から吊り下げた免荷リフトにサスペンションハンガーを使用し早期より安全に歩行訓練が可能となっています。また、高齢者や低体力者が安全に使用できる有酸素運動機器の増備、肢位を調整しながら治療できるベッドを整備し患者様の負担を軽減し効率的な治療ができるよう改善しています。

作業療法室では、在宅支援に向けた日常生活動作の支援として、可動式手すりを装備した浴室、家事動作を行う電動昇降式キッチン等の設備を設置しています。

言語聴覚室は、新しくセンター内に移設し失語症、構音障害に対する訓練の他、摂食嚥下障害、高次脳機能障害等に対する支援を行っています。

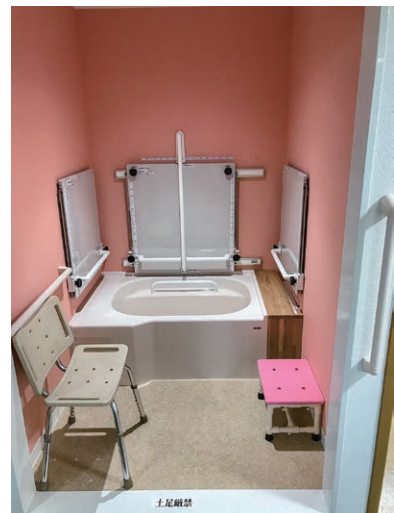
今後は、臨床、研究、教育活動を通し、地域のニーズに貢献できるよう更に歩みを進めていきたいと思っています。



リハビリテーションセンター



天井走行式リフト



浴室



南伊勢町立南島西小学校様から、「人権の花運動」で小学生が育てたマリーゴールドとサルビアの鉢植えをいただきました。7月22日午後、児童代表のお二人と教職員の方が、当センターに鉢植えと、職員に宛てたお手紙を届けてくださいました。

お手紙には「けがをした人に花を見ていただいて、いい気持ちになっていただきたい」「南島メディカルセンターのみな様お体に気を付けてください」と心温まるメッセージが綴られており、新型コロナウイルス感染症の拡がりに細心の注意を払いながら、業務に従事している職員にとって、とても大きな励ましをいただきました。

南島西小学校のみなさんが考えた人権標語をここにご紹介します。

「人権の花運動」のお花をいただきました
職員に対し小学生から心温まる贈り物
南島メディカルセンター 事務部長 教来石 信彦



※「あばはい」とは「まぶしい」という意味の方言です。

最優秀賞
「ありがとう
いわれてすぐく うれしいな」
優秀賞
「花さくと
みんなが笑顔 あばばいな※」
「さかせよう
こころにのこる いちりんを」
「おだやかで
やさしい心の 花いっぱい」

福祉とは何でしょうか。日本福祉大学 原田正樹先生によると、平仮名で「ふくし」と表して「ふ」さんの、『く』らしの、『し』あわせ」と言い換えることができます。

例えば、脳卒中で倒れた方の多くは、半身まひなどの後遺症を抱えます。また、がんと診断され、手術や抗がん剤治療を受け闘病生活を送るなかで、副作用に悩み、家庭、職場そして地域での役割が十分に果たせないこともあります。このように日常生活上の困難さに直面します。

そんなとき、私たち社会福祉士が個別に相談を受けています。具体的には、担当する医師、看護師などと治療方針を共有しつつ、専門のリハビリテーション病院を紹介します。また、診療所医師、訪問看護師、介護サービス事業所などと連携を図り、安心して自宅で療養できるように支援します。そして、さまざまな福祉制度を駆使して、治療を続けながら医療費や生活費の負担が軽減できるように働きかけを行います。

現在、社会福祉科には社会福祉士11名、事務員1名が在籍し、基本的に本館1階「患者支援センター」で

病院で福祉の相談ができることをご存じですか？

鈴鹿中央総合病院 社会福祉科長 藪下 茂樹

相談を受けています。なお、必要に応じ、同センターに所属する看護師と協同で対応致します。

これからも、私たち社会福祉士は、病を抱えながらもその人らしい「ふくし」が実現できるように取り組んでいきます。どうぞお気軽にお越しください。



社会福祉科スタッフ同です

自動錠剤分包機および調剤支援システムの更新について ～三重県初導入の調剤過誤防止システム～

三重北医療センターいなべ総合病院 薬剤部 技術部長 谷口 靖樹

調剤過誤の要因のうち、1. 薬剤名称の酷似、2. 薬剤師の薬効的思い込みによる薬剤の取り間違いであることが独立行政法人医薬品医療機器総合機構より報告されています。このような調剤過誤を回避する方法として自動錠剤分包機（以下、分包機）の使用は有効です。また分包機は服用維持や入院患者の予約準備の軽減にも有用で

あり合理的です。ただし分包機に設置された薬剤充填用カセットに薬剤を充填する工程とコンベア作業（いわゆる手まき）の際、誤って異なる薬剤を使用することが問題です。

今回、更新された分包機は三重県で初めて導入された機器です。特徴として、誰が何を充填あるいは手まきするかを認証後、起動する仕組みであり、

先の誤りが回避されるようになりまし

た。同時に調剤支援システムを更新し、分包機の分包紙、薬袋さらにお薬引換券に患者番号のバーコードを表示することとしました。それぞれのバーコード

を読み取ることで、分包紙と入院患者のリストバンドとの照合、薬袋とお薬引換券の照合により、お薬の渡し間違

いを防げるようになったと考えています。（この照合システムの予算は計上されていないためExcelのVisual Basic for Applicationsを駆使し作成しました。）

今回の更新を機にデジタル媒体を紹介するハード的なリスクマネジメントが進められる機会になれば幸いです。



次世代型自動錠剤分包機
左図：自動錠剤分包機全体図
上図：お薬充填作業（薬の認証）



09/11 (金) 様
テスト 眠前 内科
持参薬



入院患者様お薬照合
注射剤投与の際、リストバンドと注射剤バーコードの照合は実施されています。それと同様に分包紙にバーコードを表示し、リストバンドのバーコードを上段のExcel VBAソフトにて照合。



お薬窓口照合

薬袋とおくすり引換券のバーコードを表示、下段のExcel VBAソフトで照合する



女性泌尿器科外来を開設しました 「頻尿や尿失禁で悩む女性にはぜひ受診を」

最近、頻尿や尿失禁で悩んでいる女性

性がとても増えています。頻尿や尿失禁は生命に関わることは滅多にありませんが、睡眠不足や外出しづらくなるなど生活の質を大きく落としてしまいます。それなのに、頻尿や尿失禁は年齢を重ねたせいであると考え、仕方がないとあきらめてしまつ人が大半でした。また泌尿器科と聞くと、男性が通院する診療科とのイメージが強いかと思えます。そのため、泌尿器科を受診することにためらいを感じ

じる女性が多いようです。

そこで、いなべ総合病院では排尿に悩みを抱えた女性患者さんが安心して受診しやすい環境を整えるため、令和2年5月より「女性泌尿器科外来」を開設しました。「女性泌尿器科外来」では産婦人科と協力して、中高年の女性に多くみられる頻尿、尿失禁、骨盤臓器脱などを診療します。診察では排尿に関するアンケート、超音波検査などを行います。そして、一人一人の患者さんに合った治療

を提案しています。

治療には、生活指導、薬物治療、手術などがあります。生活指導では、日常生活における水分の摂り方、便秘・肥満の改善や運動（体操）についてアドバイスしています。薬物治療では、これまでも

よりも副作用の少ないお薬が相次いで開発されています。咳やくしゃみをした際に尿が漏れる腹圧性尿失禁には、尿道を支えるメッシュを挿入する手術が広く行われています。これらの手術は、手術時間も短く、身体への負担も少ないため高齢者でも安全に行うことができます。骨盤臓器脱に対する手術でも、身体への負担が少ない腹腔鏡下手術が可能になりました。

いなべ総合病院では専門性の高い排泄ケアをこれから充実させていきたいと考えております。まずは、お気軽にご相談ください。

いなべ総合病院 女性泌尿器科外来

「女性泌尿器科外来」では、泌尿器科と婦人科が協力し、子宮脱などの骨盤臓器脱、尿失禁、頻尿・過活動膀胱の診察、治療を行います。まずは、お気軽にご相談ください。

<診察日時>

第2・4火曜日 午後14:00～16:00
(完全予約制)

<場所>

婦人科外来

日程の都合が合わない方は、泌尿器科外来で対応いたします

<連絡先>

三重北医療センターいなべ総合病院
地域連携室・泌尿器科・産婦人科
0594-72-2000（代表）

三重北医療センターいなべ総合病院

泌尿器科

特別診療部長

安藤 亮介

女性泌尿器科の治療で代表的なのが骨盤臓器脱です。膀胱や子宮、直腸などが膣から出てくる症状で非常に不快です

くしゃみをするとうるが漏れる尿失禁

何度もトイレに行きたくなる頻尿、過活動膀胱



新型コロナウイルス感染防止対策 ～ 菰野厚生病院アラート発動！～

中国の湖北省武漢市から始まった新型コロナウイルス感染症は、今では日本を含む全世界で流行が広がっています。

当院では、三重県内で1例目の新型コロナウイルス感染が発表されたことに伴い、看護部の一面に「新型コロナウイルス対策本部」を立ち上げ、感染対策担当医師、感染管理認定看護師を中心とした感染対策チームを編成し、日々発生する問題への対応、症例検討や現状分析などを行い、比較的早い段階から職員の健康管理や全ての来院者の検温等の感染対策に取り組んできました。また、最新情報コーナーを設け、三重県感染状況、当院の取組みなどを掲示しており、スタッフが自由に閲覧できるようになっています。

一旦は収束しかけた感染ですが、7月に入り再燃しました。そこで、三重県および菰野町における新規感染者数、入院患者数などをもとに、その時点で当院の置かれている状況と実施する対策をスタッフ全員が把握・共有できるようにレベル0～3の4段階からなる「菰野厚生病院アラート」を作成しました。さらに、スタッフおよびその家族が、発熱・呼吸器症状などを呈した場合、濃厚接触者と認定された場合、あるいは濃厚接触者と接触した場合な

どを想定してスタッフがとるべき行動を示した対応マニュアルを作成し、医療従事者としての自覚を持ち『新しい生活様式』を心掛けながら、感染予防を行ったうえで、持ち込まないこと、広げないこと、を常に意識して行動することをスタッフに周知することで院内感染防止に努めております。

当院に限らず病院スタッフは、限られた人数の中で多くの患者様と向



三重北医療センター 菰野厚生病院 事務部長 岩名 敏宏

き合い、自身や家族、友人への感染リスクを背負いながら勤務しています。刻々と変化する状況に対し、不安な気持ちやストレスと感じる生活を余儀なくされながらも治療の最前線で働くスタッフの尽力には感謝に堪えません。終わりの見えないウイルスとの闘いですが、院内感染を起こさない最善の努力を行い、この難局をスタッフ一同一丸となって乗り

越えたいと思っています。

最後に、医療機関での医療物資不足に関する各種報道を受け、菰野町をはじめ、複数の個人・企業から当院へのマスク等のご寄付をお申し出いただきました。当院へご配慮いただきましたこと、心より感謝申し上げますとともに、ご寄付いただきましたマスク等は、職員の感染予防のために大切に使用させていただきます。



Eye care data management「FORUM」を導入しました ～治療管理のサポートとして～

大台厚生病院眼科 医長 森山 寿己

令和2年4月から当院眼科外来にデータマネジメントシステムFORUMが導入されました。FORUMは、眼科検査データを集中管理Page Archive（サーバ）とデータを閲覧・解析するViewer（ビューア）を中心に構成されています。

FORUMによって患者データ・検査データの複数の接続器械間での共有が可能となり、各器械のデータを集中管理し、バックアップします。ペーパーレスで検査結果や画像を表示し閲覧ができます。

特に緑内障や網膜症、黄斑疾患に特化しており、患者さまの治療を効果的にサポートできる機能となっています。

機能の1つとして、緑内障診療支援アプリケーション（FORUM Glaucoma Workspace）は、視野計、網膜光干渉断層計、眼底カメラが連携し、検査結果を統合することにより、自動で視野機能と網膜構造の総合レポート（コンボレポート）を作成します。また視野結果の経時的な解析も行い、緑内障診断やフォローアップをサポートします。

現在の眼科診療において、患者管理システムはたいへん有効的に活用しており今後も診断・治療に大いに役立てていきたいと考えております。



データマネジメントシステム FORUM



総合レポート(コンボレポート)

急性・重症患者看護専門看護師の活動紹介

鈴鹿中央総合病院 急性・重症患者看護専門看護師 竹内 昌代

平成26年急性重症患者看護専門看護師の資格を取得し6年目となります。医療職の方でも、急性・重症患者看護専門看護師と聞いて何をされる人なのかピンとこない方もみえるのではないかと思います。専門看護師は、「実践・相談（コンサルティング）・調整・倫理調整・教育・研究」と6つの役割を担うことを目的に活動しております。その中でも、急性・重症患者看護専門看護師は、主に緊急度や重症度の高い患者さんの看護実践や、患者さんやご家族、取り巻く看護師・他職種に対し、その役割を發揮します。具体的には、院内の看護教育委員として看護師の教育計画の立案・運営を行ったり、地域の看護大学などで授業をさせてもらうこともあります。また、院内の呼吸ケアサポートチームのコンサルティング窓口となり、呼吸ケアに関する相談の調整を行っています。現在はCCUを併設している循環器内科病棟に所属しており、

昨年、医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・公認心理師・医療ソーシャルワーカーからなる多職種心不全支援チームを立ち上げ、再入院率の高い心不全の患者さんの生活指導や、心不全の病期を考えた症状緩和、QOLの向上を目指した活動を行っています。最近では、実際に退院前にご自宅を訪問させていただいたり、外来診察の来院に合わせて看護

面談の調整をさせていただいて、自宅で安心して療養生活が送れるお手伝いできればと考えています。慢性心不全は、急性増悪と寛解を繰り返しながら最期を迎える疾患であり、病気の経過がとらえにくく、終末期に至るまでの治療の選択や、最期をどのように迎えたいかなどを家族と話す機会のないまま最期を迎える方が多い現状があります。今までの看護経験の中で、意識のない患者さんの治療内容について、代理意思決定をしなければならぬご家族の苦悩される場面に携わってきた経験から、望む治療と生き方に関する話を、事前に患者・家族間で対話する機会がもてるようなお手伝いができたらと考えています。



心不全支援チーム

地産地消を進めて早や10年・秋尽くし献立(普通食)

三重北医療センター いなべ総合病院 管理栄養士 瀬古ちさと

地産地消とは地域生産・地域消費の略語です。当院は厚生連病院として近隣JAの協力の元、月に3回「地産地消推進の日」と名付けていなべ市で採れた食材を使った献立を提供しています。その中からさつま芋・キノコ・チンゲン菜を使った『秋尽くし献立』をご紹介します。

◆さつま芋ご飯

【材料】(1人分)
 ●ごはん…150g
 ●さつま芋…40g
 ●塩…少々

- ①さつま芋は1cm角のサイコロに切って塩をまぶし、10分ほど蒸す。(レンジ可)
- ②ご飯を普通の水加減で炊く。
- ③炊き上がったらさつま芋を崩さない様に混ぜる。

◆秋鮭のマリネ

【材料】(1人分)
 ●秋鮭切り身(生)…80g
 ●塩…少々
 ●天ぷら油…10g
 ●玉ねぎ…30g
 ●ミニトマト…20g
 ●砂糖…6g
 ●酢…10cc
 ●サニーレタス…10g

作り方

- ①鮭は塩少々で下味をつける。
- ②小麦粉を鮭全体にまぶしてカラッと揚げる。
- ③玉ねぎは薄くスライスして茹でて水気を切る。
- ④胡瓜は皮つきでせん切りにする。
- ⑤酢と砂糖で甘酢を作る。
- ⑥甘酢に鮭・玉葱・胡瓜を10分ほど漬ける。
- ⑦器にサニーレタスを敷き鮭を置き玉葱と胡瓜の上にのせて甘酢をかける。
- ⑧彩りにミニトマトをあしらいつ。

◆ナスとシメジの煮物

【材料】(1人分)
 ●ナス…50g
 ●インゲン…10g
 ●だし…少々
 ●醤油…4cc
 ●本シメジ…15g
 ●人参…5g
 ●砂糖…5g

作り方

- ①ナスはあれば8cmくらいの小ナスを用意する。(普通サイズのナスなら長さを半分に切る)
- ②ナスはらせん状に切込みを入れて味をなじみやすくする。
- ③本シメジは石づきを取りほぐしておく。

◆チンゲン菜のお浸し

【材料】(1人分)
 ●チンゲン菜…100g
 ●だし…少々
 ●薄口醤油…2cc
 ●すり胡麻…少々
 ●みりん…少々

作り方

- ①チンゲン菜を茹でて水気を切る。
- ②調味液を作りチンゲン菜を和える。
- ③盛り付けて好みで胡麻をふる。



エネルギー…643キロカロリー
 たんぱく質…25.9g
 脂質…14.6g
 塩分…2.0g

JA三重厚生連

人に 地域に やさしい看護

薬剤師

看護師

介護福祉士

看護補助員

募集

三重北医療センター
菟野厚生病院

本部

大台厚生病院

三重北医療センター
いなべ総合病院

鈴鹿厚生病院

鈴鹿中央総合病院

松阪中央総合病院

南島メディカルセンター

厚生連だより Vol.83

2020.10 発行

発行／三重県津市栄町1丁目960番地

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354

http://www.miekosei.or.jp/ E-mail:info@miekosei.or.jp



自然保護のため、石油系成分の少ない植物油性インキを使用しています。